

〔支店版〕コスト改善チェックリスト（本社情報抜粋）

検討：1998年 月 日

プロジェクト名：

工事分類	項目			
0 計画	建物形状	平面形状は矩形に近いシンプルな形状ほどコストは安い		
	配置	外周施工導線の確保		
		山止め計画との調整		
	レベル	GL設定を極力高くする。		
	構工法	RC、SRC、SC、S、RCPC、RCSS、各種構工法の検討		
1 仮設工事	足場	無足場工法の検討	大空間施設	
		移動足場及び高所作業車利用による足場数量の低減	工場、生産施設	
		ベランダ外部足場を、無足場又はフライング足場により簡略化する	マンション	
		外部鉄骨階段の先行塗装による外周足場の中止		
		鉄骨先行塗装により足場の低減	工場、生産施設	
	山止め	山止め壁の検討	親杭幕板、シートパイル、SMW、連壁	
		支保工の検討	切り張り、アースアンカー	
			建物周囲をオープンカットして切梁を一段減らす又は自立とする。 マットスラブの採用により根切り底を浅くする。	
	乗入構台	乗り入れ構台を置構台で計画・施工する		
		大型重機により構台面積を小さくする。 新地下工法により乗り入れ構台を取り止める。		市街地建築
排水				
2 土工事	山止め合理化	必要なピットは建物中央に集めオープンカットで根切りを行う		
	根切土量の減	1FLを上げることにより根切り量を減らす		
		掘削土場外処分を、場内仮置きの上埋め戻し再利用する		
		地下外周余掘り取り止め、外周壁片型枠とする。 基礎ピット取り止め又は縮小埋め戻し		
砕石減	栗石敷きを砂利敷きに変更する、厚みの検討			
	砂利地業工事に、再生砕石を使用する			
	杭基礎の場合の基礎・梁下砕石中止 スラブ形式の場合の土間下砕石の中止			
工法	山留掘削工法を潜函工法に変更			
3 杭工事	仕様検討	PC群杭を現場打杭単杭とする。		
		アースドリル杭を摩擦杭に変更する		
		直杭を拡底杭に変えて軸径を細くする		
		杭のコンクリート強度をFc36Nにあげて、杭径を細くする		
		場所打杭のバト工法を、アースドリル工法に変更する		
		杭のコンクリートを高炉B種に変更する(56日管理)		
		既製杭を、拡底根固め工法とする		
		パイルスタッド工法の採用による、PC杭頭鉄筋の改善		
	施工法	既製杭アースドリル併用を、直打打撃工法に変更する		
		一定の深さまで先行掘りして杭長・空堀施工費を削減する レベル合せ打設でPC杭頭処理を省略する サンドポンプによる杭頭スライムの吸引等、杭頭処理の省略化		

〔支店版〕コスト改善チェックリスト（本社情報抜粋）
プロジェクト名：

検討：1998年 月 日

工事分類	項目		
	地盤改良	地盤改良により杭を中止する 地盤改良 コラム杭工法をエルマット工法に変更	
4 生コンクリート	仕様検討	初期強度を特別必要としない部位の高炉コンクリートの採用 ファイバーコンクリートの検討 基礎コンクリートの温度補正取り止め	杭、基礎 土間
5 型枠工事	仕様検討	基礎型枠にメッシュ型枠使用 ピットスラブ型枠にデッキ型枠又はハーフPC使用 スラブ型枠をフラットデッキタイプに（小梁がある場合） 床版に合成デッキ床版を採用する	
	工法改善	シートパイル部分の捨て型枠を、ラス型枠で施工する 曲面型枠を、直線の組み合わせとする 型枠早期解体計算により、支保工を直上階に転用する 内部壁型枠は、パネル化と転用計画によりコストを下げる 土間コン打ち継ぎ目地普通型枠をアングル型枠に変更 木コンの代わりにレジコン使用	
6 鉄筋工事	運搬費削減	底盤・スラブ等、直物の鉄筋は現場直納に依る施工を行う 現場加工 基礎フーチン 袴筋低減 土間配筋に一方向メッシュ鉄筋を使用 スパイラル筋を閉鎖型フープ筋にする	
7 鉄骨工事	計画	鉄骨柱の基礎中へ落とし込み工法 鉄骨接合部ホルト接合を、溶接接合とする（ノンブラケット工法） FR鋼使用による耐火被覆の取りやめ 部位別分離発注	駐車場 大規模施設
	材料 加工	鉄骨材はできるだけロールH材を使用する 梁材の端部と中央部の断面・材質を同一にするか、分けるか検討 柱の絞り、梁のハンチ等は材料、加工費で検討する。 ウェブPLの交差部分は、スカラップなしにする	大スパン施設
	錆止め塗装	耐火被覆吹き付け部の錆止め塗装の省略	
	組み立て	鉄骨小梁とデッキプレートの先組工法 大スパン鉄骨建て方に移動ステージを採用 鉄骨建て方に、マイティーシャクルを使用する サの字鉄骨建て方による仮設費の削減	
	関連	鉄骨の先行塗装 合成床版スタット工法を、焼栓溶接工法とする 内部鉄骨階段モルタル仕上げを、鉄骨直仕上げにする（横森式鉄骨階段）	

〔支店版〕コスト改善チェックリスト（本社情報抜粋）

検討：1998年 月 日

プロジェクト名：

工事分類		項目	
			鉄骨本締用専用足場(トック等)を、クロスハンガー等にて代用する
8	耐火被覆		耐火被覆湿式を半湿式に変更(及びスリ-掛検討) セラミック耐火被覆は、ロックウール吹付けに変更 柱耐火被覆ラスモルタル塗り→キャスト引張りに変更 最上階の耐火被覆の見直し(4M以上不要)
9	PC工事		スケジューリングによる型枠数の低減 現場製作による運搬費低減
10	組積工事	仕様変更	押出成型板を、ALCに変更する
		施工法	外壁ALC板、押出成型版取り付け用下地アングルを省略し間柱に直接取り付け 搬入方法の改善
11	防水工事	仕様変更	屋根及び下階の使用状況によって防水仕様を検討する。
13	石工事	仕様変更	框石、約物等無垢石加工は、平石接着とする 床石張りのt30をt20で施工する
14	タイル工事	仕様変更	仕様変更、施工範囲の縮小
15	木工事	仕様変更	材木仕様の変更、集製材、塩ビシート貼製品の使用
16	屋根工事	仕様変更	金属板屋根の材質・厚みを見直す 軒樋金属製は、塩ビ製既製品に変更する 下地スカイモルタル取り止めコンクリート金こて 防水立上がり湿式押えは、乾式に変更する 防水外断熱を、内断熱(打込、吹付け等)に変更する 屋上防水押さえ工法を露出工法に変更 屋上駐車場アス防+押さえコンをゴムアス防水+アスコン舗装とする 屋上庭園客土に人工土壌を採用する(D. L. の軽減も有り) 屋上庭園客土部分の断熱工事を省略する
		工法	タイトフレーム先付け工法による仮設工事費の削減
		関連	最上階の耐火被覆の見直し
17	金属工事	仕様変更	段階的に仕様ダウンする 軒天アルミパネル貼りを、アルミスパントレル貼りに変更する 軒天アルミスパントレルを、ビニトップスパントレルに変更する 軒天アルミスパントレルを、岩綿吸音板(外部用)に変更する 軒天アルミスパントレルを、ケイカル板塗装(吹付け)に変更する ステンレス製手摺等は、アルミ製に変更する アルミ製手摺等は、スチール製に変更する スチールパネルメッキ品は、アルミ焼付けに変更する

プロジェクト名：

工事分類		項目	
		階段等手摺を、メーカー既製品より選ぶ	
		吹き抜け部分の手摺り強化ガラス+SUS手摺りをスチールに変更	
		カーテンレールブロンズは、ステンスに変更する	
		グレーチングSUSは、メッキ品又は鋳鉄に変更する	
		サッシタイプ(形式)を見直す	
18	左官工事	仕様変更	外装吹き付け材仕様の見直し 打放し面フッ素樹脂塗装はアクリルシリコンに変更する バルコニー床のコンクリートモリシック化 廊下・バルコニーのモルタル出巾木の中止 外部階段排水溝を見直し、最小限度にする 床モルタル塗りは、コンクリート直押えとする 床コンクリート直押え時、左官ロボット使用検討
19	木製建具工事	仕様変更	病院関係のカームドアは、自動閉鎖を中止する 木建・枠材の使用材・表面材の検討 クローゼットの扉を枠なしとする 襖はダンブスマとし、縁の材質も確認する トイレブース他木建のメラミン化粧板を、ホリ合板に変更 障子、檜製をスプルースに変更する
20	金属製建具工事	仕様変更	サッシタイプ(形式)を見直す アルミサッシの適正スペックの確認(強度、気密、水密) アルミサッシの着色方法の再検討 鋼製建具の仕様変更(金物) 鋼製建具の仕様変更(AT) 鋼製建具の仕様変更(防火戸を3m2以下にする) カーテンウォール パックマリオン型は、通常のノックダウン方式に変更する 自動ドアのマットSWIは、無目付センサーに変更する 防火区画シャッター電動を手動とする 防火防煙シャッターSOP取りやめ 重量電動シャッターを、軽量電動シャッター2枚で検討(法規確認) 軽量電動シャッターは、電動を中止し手動とする ステンレス建具の表面仕上げの選択 既製品LSD・SDは枠・扉とも既製品メーカーと直接取極 SD焼付け塗装は、現場塗装に変更する ELV機械室の採光窓・吸気がリを額入がリ付SDとする
		取り付け工法	SD、STD、WDの靴摺の簡略化または省略 モリシック時のSD枠取付けはノンはつり工法とする
21	ガラス工事	仕様変更	ガラス押さえをシールからビードに変更 ガラス厚がオーバースペックとならないように選択する 熱線反射ガラスを熱線吸収ガラスに変更する
22	左官工事	仕様変更	外装吹き付け材仕様の見直し 打放し面フッ素樹脂塗装はアクリルシリコンに変更する バルコニー床のコンクリートモリシック化 廊下・バルコニーのモルタル出巾木の中止

プロジェクト名：

工事分類	項目	内容
		外部階段排水溝を見直し、最小限度にする
		床モルタル塗りは、コンクリート直押えとする
		床コンクリート直押え時、左官ロボット使用検討
23	塗装工事	仕様変更
		鉄骨先行塗装
24	雑工事	
	床仕上げ	床OAフローは性能・材質・高さを確認して選択する
		設備配管ルートを見直し、床組・2重天井を止める
		床ホモニアスタイルを、長尺シートに変更する
		床ホモニアスタイルを、ノンアスベストスタイルに変更する
		住宅等の床長尺シートは、CFシートに変更する
		タイルカーペット900角は、450角に変更する
		床フローリングL45を、L50に変更する(公庫不可)
		床フローリングは、仕様によってNET、仕切が違う
		機械室等合成樹脂系塗床は、アクリル系防塵塗装に変更する
		便所床防水使用を長尺溶接工法に変更
		便所防水立ち上がりコンクリートの取りやめ
		OAフロー+タイルカーペットに海外購買を検討する
		2重床コンクリート金鍍押さえを均しに変更
		スーパー売場床仕上げセラタイルをホモニア系タイルに変更
		厨房床アス防水タイル貼りを、防水中止しウレタン系塗床に変更
		厨房床用長尺シート貼りを、ウレタン系塗床に変更
		床仕上げ浸透性コンクリート強化剤をフェロン(真空コン併用)に変更
		厨房等床排水ピット位置を早期決定、後打ちコンクリート中止
		床排水ピット場所打を、PC溝に変更
		床の洗い出しを平板ブロックに
		和室における畳敷き下地材の変更(ネダフォーム→直置き)
		床フリーフローの範囲を見直し、ネダフォームとする
		床フリーフローの必要性を再検討し、仕上げ材直貼りに変更する
		木製床組の場合、ネダフォーム・フリーフロー等で検討する
		木製巾木塗装仕上げを、塩ビシート貼り既製品に変更する
		木製巾木を、半硬質塩ビ巾木(木目調)に変更する
	壁仕上げ	10F以下の階では内装制限に照らし不燃ボードを準不燃に変更
		間仕切りボードのt12.5をt9.5に変更する
		マンション間仕切りLGSを木間仕切りに変更
		壁クロス下地AEP塗りを、クロス張りのみに変更
		壁モルタル塗りを、PBGL工法に変更する
		RC壁下地GLボードを、乾式遮音間仕切りに変更する
		CB壁下地GLボードを、乾式遮音間仕切りに変更する
		RC壁の時、GLボードを薄塗モルタルとする
		RC壁の時、GLボードを打放し補修とする
		壁コンクリート薄塗モルタルを打放し補修とする
		在来乾式遮音(耐火)壁を、規格品乾式壁に変更する
		マンション間仕切りのLGSを、木軸に変更する
		壁タイル張り湿式工法を、乾式工法に変更する
		便所等壁化粧ケイカル板張りを、耐水PB下地吹付け
		ボード工事に在来工法を、プレカット工法で施工する
		壁・天井のケイカル板は、(耐水)PB貼りに変更する

プロジェクト名：

工事分類	項目	
		ビニールクロスAA級は、A級に変更する
		耐火間仕切りをALCに変更
		地下2重壁CB積を、乾式工法（ラムダ、ケイカル等）に変更
		ショーケース裏側となる部分の仕上げ省略
		倉庫・バックヤードはボード仕上げなしとする
		押入の壁に化粧PBを使用
天井仕上げ		天井化粧プラスターボード910口を1000口にすることでロス無くす
		システム天井（ラインタイプ）のパネル・バー材の仕様見直し
		重要でない部屋の岩吸天井は、ジプトーンに変更
		天井在来工法を、システム天井に変更する
		天井岩綿吸音板の指定色塗装は標準色のままとする
		リブ付岩綿吸音板の使用範囲を見直し、リブ付を減らす
		岩綿吸音板ミネラトンを、ソーラートン・ダイロトンに替える
		和室の天井に和室用プリント合板を使用
		居室内2重天井を直天井とする
		一般天井のアルミ廻り縁を、テコ見切り・塩ビ等に変更する
		一般天井の廻り縁を、天井底目地にしてなくする
		洋室の天井廻り縁中止
外装		靴拭きマットSUSを、ABCノーマットエクストラに変更する
		内部縦樋 白管φ100を、VP+保温に変更（貫通部仕様確認のこと）
		防煙垂・ガラスをフレキボードとする
25 外構工事		
		アルミフェンスH1200をスチールメッシュフェンスにする
		外部の花壇コンクリート、既製品のPC縁石とする
		RC擁壁を既製品PCに変更
		自転車置き場を背中合わせタイプから一方向タイプに変更
		自転車置き場は、各種グレードが有るので検討する
		駐車場の車止めを中止
		車止ブロックを片側のみ（1台に1個）とする
		碎石敷き駐車場一般碎石をアスファルト再生材に変更
		舗石ブロックは、インターロッキングに変更する
		外構インターロッキングをカーアスファルト舗装に変更
		栗石舗装（コンクリート共）は、住ゴム産業インクリート等に変更
		門扉SUS製は、アルミ製とする
		門扉引戸は、アコーディオン式とする
		保護ポールの頭部形状変更でコストダウン
		現場打樹は、既製品を使用する
		目地タイプ天井点検口を額縁タイプにする
		木製額縁塗装仕上げは、塩ビ既製品を使用する
		枠・額縁・C-Boxの樹脂既製品の利用
		カウンター他石製を、ホストフォームに変更する
		照明Box等木製加工品は、スチール曲げ加工に変更する
		WC仕上げが湿式なら乾式工法（イナバ・スピークレット等）に変更
		客用便所、洗面化粧台の下部戸棚を中止
		システムキッチン・洗面台・UB等のグレードを下げる
		木建・家具等のメジン化粧板を、塩ビシート貼既製品に変更
		便所等ライニングの必要性の再検討
		階段ノンスリップSUS硬質ゴム入りを、硬質アルミニウムタイヤに変更
		通路・ストックルームのストレッチガードの範囲縮小
		スチール焼付カーテンBoxを、アルミ既製品・塩ビ既製品等に変更する

プロジェクト名：

工事分類		項 目	
		機械室等の壁天井グラスウールマットは、遮音の必要性を再検討する	
26	設備工事	共通	建設省仕様を建設省外仕様とする。 特注品を標準品とする。 メーカー指定をなくする。 現場打ちハンドホールを既成品とする。
		電気	
		衛生	
		空調	
		ELB	性能(速度・積載荷重・制御方式・仕上仕様等)の見直し H=20m以下ならロープ式を油圧式に変更する ELV電気配管・マシンビームをスラブ打込にし増しコンなしとする カゴ内の床張り・サイン・ドアのガラス等を建築工事とする 早期に完成させ、仮設使用して仮設揚重機を早期解体する

〔支店版〕コスト改善チェックリスト（本社情報抜粋）

検討：1998年 月 日

プロジェクト名：

	工事分類		項 目	